

令和6年度 第2学年 技術・家庭科(家庭分野) 年間指導・評価計画(年間35時間)

目標	<p>○生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)生活と技能についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身につけるようにする。</p> <p>(2)生活や社会の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構築し、実践を評価・改善し、表現するなど、課題を解決する力を養う。</p> <p>(3)よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。</p>
----	--

【 評価の観点 観点①知識・技能 観点②思考・判断・表現 観点③主体的に学習に取り組む態度 】

月	時間	題材名	題材のねらい 主な学習内容	評価の規準(評価方法)
	1	ガイダンス◇	・授業で用いる教材や年間の授業計画を確認し、1年間の活動の見直しをもつ。	③1年間の授業計画を見通して、計画を立てることができる。 ①1年間の見直しの中で、食品とその選択として、ワークの確認問題を積極的に取り組むことができる。
	2	C.消費生活と環境 1、消費生活のしくみ 2、購入・支払いと生活情報 ・いろいろな支払方法 3、消費者被害と消費者の自立 ・なくなる消費者被害	<p>*1年生の復習と確認</p> <p>・物資とサービスの特徴がわかる。</p> <p>・消費生活のしくみがわかる。</p> <p>・店舗販売と無店舗販売の特徴がわかる。</p> <p>・即時払い、前払い、後払いの特徴を理解し、利点と問題点を理解する。</p> <p>・消費者被害の現状や背景について理解し、予防の方法がわかる。</p>	<p>②物資とサービスの選択と購入について、問題を見いだして課題を設定している。</p> <p>①購入方法や支払い方法の特徴について、理解している。</p> <p>③消費者被害について、課題解決に向けて、主体的に取り組もうとしている。</p>
4 5 6 ◆ 7	11	<p>B.衣食住の生活</p> <p>1、食事の役割と食習慣 ・食事の役割 ・健康によい食習慣</p> <p>2、中学生に必要な栄養を満たす食事 ・中学生の発達と必要な栄養</p> <p>・栄養素のはたらきと6つの基礎食品群</p> <p>6、献立づくり ・1日の献立をたてる</p> <p>3、さまざまな食品とその選択 ・生鮮食品の選択と保存 ・加工食品の選択 ・賞味期限と消費期限 ・食品添加物の種類と目的 ・伝統的な食文化◇★</p>	<p>・食事の役割について理解し、毎日の食生活に関心をもつ。</p> <p>・健康によい食習慣について学び、規則正しく食事をとることの重要性を理解する。</p> <p>・中学生の時期の身体的特徴を理解し、中学生に必要な栄養の特徴がわかる。</p> <p>・食品は、栄養的特質により、食品群に分類されることを理解する。</p> <p>・栄養バランスのとれた献立計画を立てる。</p> <p>・生鮮食品の特徴がわかる。</p> <p>・目的に応じて生鮮食品を確かな目で選択、保存できる。</p> <p>・加工食品の特徴がわかる。</p> <p>・目的に応じて加工食品を選択できる。</p> <p>・パッケージから、食品の表示を読み取り、レポートにまとめることができる。</p> <p>・さまざまな食文化を理解する。</p>	<p>①生活の中で食事が果たす役割を理解している。</p> <p>①食事の役割と中学生の栄養の特徴について、課題解決に向けて主体的に取り組もうとしている。</p> <p>①中学生に必要な栄養の特徴について、理解している。</p> <p>①栄養バランスのとりかたについて、理解している。</p> <p>②献立の作成から課題を見つけ、解決しようとしている。</p> <p>③自分の好みを反映した献立作りを通して、よりよい食生活を実現しようとしている。</p> <p>①生鮮食品・加工食品の特徴について理解している。</p> <p>①用途に応じた(肉・魚・野菜)の選択について、理解しているとともに適切にできる。</p> <p>②お菓子のパッケージの原材料の読み取りから、食品を選択・購入する時の課題を見つけ、消費者としての課題設定をしている。</p>

		<p>4、日常食の調理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・調理の流れと手順がわかり、計画を立てることができる。 ・調理室の使い方、掃除の仕方を理解する。 ・調理用具の場所、取り扱いの確認をする。 ・練馬区の課題である、朝ごはんコンクールの作品を考え、実習し、レポートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①食品添加物について、理解している。 ③調理実習を通して、調理室、調理道具を適切にできる。 ①中学生の1日に必要な食品の種類と概量が分かり、「朝ごはん」の献立作成について理解している。 ②「朝ごはん」コンクールに向けて、中学生に適した「朝ごはん」の課題解決に向けて主体的に取り組もうとしている。
<p>9 10 11 ◆ 12</p>	12	<ul style="list-style-type: none"> ・食品の安全と情報 4、日常食の調理 ・調理計画・実習◇ 肉の調理 魚の調理 野菜の調理 	<ul style="list-style-type: none"> ・食品を選択するとき、食品の安全や情報に関心をもって選択できるようにする。 ・調理の計画を立て、時間を意識して実習ができる。 ・肉の特徴や調理上の取り扱い方がわかり、肉を調理することができる。 ・調理器具の適切な取り扱いができる。 ・魚の特徴や調理上の取り扱い方がわかり、魚を調理することができる。 ・野菜の特徴や調理上の取り扱い方がわかり、野菜を調理することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①肉の調理の仕方について、理解しているとともに適切にできる。 ①魚の味噌煮について、理解しているとともに適切にできる。 ①野菜の調理の仕方について、理解しているとともに適切にできる。 ③それぞれの実習において、調理について工夫し、実践しようとしている。 ②それぞれの実習の食品の選択や調理の仕方について、考え、工夫している。 ③実習を振り返り実践を評価したり、改善したりしている。
<p>1 2 ◆ 3</p>	9	<p>B,衣食住の生活◇☆</p> <p>1、住まいのはたらき</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住まいの空間とはたらき <p>2、安全な住まいで安心な暮らし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭内事故への備え <p>3、持続可能な住生活</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な住生活をめざして 	<ul style="list-style-type: none"> ・住まいの基本的な役割について理解する。 ・日本の伝統的な住まいの特徴を知る。 ・住まいの空間の使い方について理解する。 ・家庭内事故の種類とその原因を知る。 ・幼児や高齢者の安全を考えた住まい方について工夫する。 ・さまざまな災害に備えて、室内を安全に整備する必要とその方法について理解する。 ・災害時に中学生として、自分たちができることを考え、実践することができる。 ・ノーマライゼーションとユニバーサルデザインのある生活について、理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①家族の生活と住空間との関わりについて、理解している。 ①住居の基本的な機能について、理解している。 ②条件に合わせた住まい方を考える。 ③住まい方のモデルに創意工夫を凝らし、主体的に取り組もうとしている。 ①家庭内事故の種類とその原因について理解している。 ③家庭内事故における家族の安全を考えた住空間の整え方について、問題を見いだし課題を設定している。 ③家族の安全を考えた住空間の整え方について、課題の解決に向けて主体的に取り組もうとしている。 ①災害の種類や、その対策について理解している。 ②災害時に中学生として、自分たちができることの課題を見いだし、考える。 ③災害に備えた暮らしについて、課題の解決に向けて主体的に取り組もうとしている。 ①ノーマライゼーションとユニバーサルデザインのある生活について知ることができる。 ②多様な人と共生する住まい方について考えることができる。 ③共生社会について、課題の解決に向けて主体的に取り組もうとしている。

評価計画(各観点の評価方法)

観点	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	家族・家庭の基本的な機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	これからの生活を展望し、家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、思考したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
評 価 の 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・ワークシート ・定期考査 ・作品やレポート ・小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・ワークシート ・定期考査 ・作品やレポート 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・ワークシート ・定期考査 ・作品やレポート

学習のアドバイス

- (1) **授業態度** タブレット PC を活用した授業が多くなります。話を聞くときは手を止めるなど、緩急をしっかりつけましょう。
- (2) **提出物** 提出物は期限を守る習慣をつけましょう。また、提出物の書き方に気をつけると、よいまとめになります。
- (3) **題材ごとのふりかえり** 定期テストの前にはワークシートやレポートの振り返りをおきましょう。記述の練習も必要です。